

ボランティア通信

～松本中学校～

目次：

優しい先生	自治行政学科 4 年 井上 恵理
学校現場で学ぶこと	経営工学科 3 年 神代 正太郎
今までを振り返って	人間科学科 4 年 落合 宏弥
見方の変化	英語英文学科 3 年 藤木 仁美
生徒との関係をつくる	人間科学科 2 年 笠井 義輝
生徒を指導する難しさ	経済学科 1 年 阿部 優生



優しい先生

自治行政学科 4 年 井上 恵理

松本中学校で社会科のアシスタントティーチャー（以下 AT）を始めて2年が過ぎました。現在は、毎週木曜日の午前中にATをさせていただいています。授業で、学習についていけない生徒の補助や、学習に集中できない生徒や居眠りをしている生徒への注意をしています。

前期の活動を通して、生徒を受け入れるということの大切さを学びました。後期は、生徒がいわゆる問題行動をしていたら、まず生徒の話を聞く、生徒の行動や考えを受け入れるということを心がけています。

今年度は、校長先生とお話する機会を毎回設けていただいています。ある時、授業と関係のないことをしている生徒に対して、注意するのではなくまず話を聞いてみた、と校長先生に申し上げました。これに対し、「たしかに聞くということは大切だけれど、注意しなければならない」というアドバイスをいただきました。私は校長先生のアドバイスを生かしていきたいと思います。しかし、今思うと校長先生の言葉の意味をしっかりと理解できていなかったような気がします。校長先生の言葉がいつも頭の中にありながら、私の行動はあまり変わりませんでした。むしろ、「ちゃんと注意をしなければ」という考えにとらわれ、生徒の話を聞くということを忘れてしまうことが多くなりました。

そのようなときに、ある先生が生徒と接する姿を見て、校長先生の言葉の意味をやっと理解することができました。授業をさぼって保健室にいる生徒と話していた時のことです。生徒の話を聞くということを思い出したので、とにかく生徒の話を聞くことだけをしていました。すると、ある体育科の先生がおいでになり、生徒の話を聞いていらっしゃいました。聞きながら「教室に戻ろう」と何度も声をかけておられました。生徒は結局教室に戻りませんでした。先生の接し方から、校長先生の仰っていた言葉の意味をやっと

ボランティア通信～松本中学校～

理解することができました。生徒の話を聞く、つまり生徒を受け入れたうえで、生徒のために注意することが大切なだと分かったのです。私は今まで、生徒に拒絶されるのが怖い、先生方にちゃんと活動していると思われなければ、と考えながら生徒の話を聞いたり、注意をしたりすることが多かったです。生徒を前にしながら、自分のことばかり気にする、自分に甘い人間でした。体育科の先生のように「生徒がこれから良い方向に変わっていけるように」と生徒のことを真に思っただけで行動できる「優しい先生」になりたいと思いました。

松本中学校で2年半も活動できたことを幸せに思います。中学校の現場を知らなかった私にとっては、慣れないことやつらいこともありました。しかし、それ以上に学ぶことがたくさんありました。生徒のたった一言で舞い上がるくらいうれしくなること、また生徒を理解することの難しさを知りました。そして、何よりも目の前の生徒を一番に思う大切さを学びました。松本中学校での学びを生かし、生徒を一番に考えられる「優しい先生」を目指していきます。

学校現場で学ぶこと

経営工学科4年 神代 正太郎

私は、大学3年生の5月から松本中学校でATとして活動しています。授業中の机間指導や特別支援のサポート以外でも、行事のお手伝いなど学校の様々な場面に携わることができるようになってきました。活動期間が長くなってきたからこそ、ただ行くだけのボランティアにしないように改めて目標を強く意識するようにしています。前期のボランティア活動の目標は「生徒を名前で呼べるようにする」でした。この目標にした一番の理由は名前で呼ぶことで生徒の方がこちらの存在をより意識してくれて、信頼関係を築く第一歩になると感じたからです。結果、多くの生徒を名前で呼ぶことができるようになって、以前よりも授業中の生徒への声掛けもスムーズにできるようになりました。

後期の目標は「毎回の活動時に、一人でも多くの

先生方と話してチーム学校を知る」にしました。残り少ない活動の中でより多くの学校現場の事を学ぶために、たくさんの先生方のお話を聞くことが大切だと感じています。松本中学校では、毎回ATの活動が終わった後に校長室で校長先生と10分ほどお話をさせていただく時間があります。そこでその日の活動の振り返りをおこない、疑問に思った点、分からなかった点を質問したりして次の活動につなげています。合唱コンクールの時期には、ある学年のクラスの雰囲気が気になっていたのも、どのようにしたらクラス一丸となって合唱に臨む気持ちを作れるかということと相談しました。その時は、クラス一人ひとりに声をかけながら、リーダーに協力してくれる人を徐々に増やしていくという助言を頂きました。実際に次の活動からは、合唱の練習を見るときに、リーダーとなっている生徒に声をかけるのではなく、周りにいる生徒に協力を呼びかけるように意識しました。クラスが一丸となったかまでは分かりませんでしたが、結果的にそのクラスは学年での最優秀賞を獲得することができました。このような少しの疑問でも相談できる機会というのは、ATの私にとっても非常に勉強になっています。先生方との情報交換を行うことで、自分が見たことがない生徒の一面や様子の発見につながります。それを生徒への声掛けにつなげていくことで、より深い生徒理解となるのだなと感じました。

生徒一人ひとりにかかわる先生の存在は、決して担任の先生だけではありません。それぞれの教科の先生方ももちろんのこと、部活動の顧問の先生や、委員会の先生など、多くの先生がかかわっているはずです。今まで以上に生徒のことを知ることや、深くかかわっていくことが将来学校現場に携わるにあたって大事になります。そのために、校長先生や授業でお世話になっている先生方以外にも、他学年の先生や違う教科の先生からお話を聞きながら、残り少ないATの活動期間の中で、学校全体で生徒を見るということを学んでいきたいと思っています。

ボランティア通信～松本中学校～

今までを振り返って

人間科学科4年 落合 宏弥

昨年度の6月から、松本中学校で保健体育科のATとして活動させていただいています。ATの活動を始めて一年半が経ち、松本中に行ける回数も残り少なくなってきました。今回は、私が今までに活動してきたことを振り返って書いていきます。

一つ目は、朝の挨拶についてです。毎週、校門の前の道路で旗を振り、挨拶をしています。何気なく始めたこの朝の挨拶ですが、始めてみると色々なことに気付ける機会であることを知りました。生徒について、保護者について、地域についてなど、朝の挨拶を始めてから気になることがたくさん増えました。その中でも、やはり生徒のことが一番気になります。挨拶の仕方、表情、服装、友人関係、登校時間などに注目して行いました。実際にあったことでは、いつも元気よく挨拶をする生徒が、あまり元気がなかったときがありました。クラスを見回った際に、声をかけてみると悩み事があったようでした。同じような例で、登校時に元気がなかった生徒に声をかけると低血圧であることが分かりました。朝の挨拶は、生徒のことを知ることができる大切な機会の一つだと思います。

二つ目は、授業中の生徒との関わりについてです。授業の中で毎回行うのが、クラスの全員に一言は声をかけることです。受動的な生徒も多く、何かきっかけになればいいなという思いも込めて始めました。生徒からは、「アドバイスをしたい」「体育嫌い」「今日はだるい」など様々な言葉が返ってきます。そういった言葉を逃さずにすぐに言葉を返しているうちに、自然とコミュニケーションがとれるようになりました。昨年よりも、

質問の回数が増えたのもこの活動があったからかもしれません。

松本中学校では、保健体育の授業以外にも、自然教室・職業体験・引き取り訓練・親睦会などたくさんの経験をさせていただきました。先生方からは、授業はもちろんのこと、それ以外でもアドバイスをさせていただきました。こういった経験の中で吸収してきたことを、どれだけ生かせるかは自分次第だと思います。学んだことをしっかりと整理して、来年に生かせるようにします。松本中学校でのATもあと三か月ですが、より多くの人と関わることで、もっともっとたくさんのことを学びたいです。



ボランティア通信～松本中学校～

見方の変化

英語英文学科3年 藤木 仁美

2015年の2月から松本中学校でATをさせていただいており、もうすぐ一年が経とうとしています。始めたばかりの頃に比べ、学校や生徒たちに慣れ、自分の活動が充実してきたように思います。授業で積極的に生徒のサポートに入ることも増え、有意義な活動をさせていただいています。しかし、その一方で慣れたことにより、そこから先の発見や学びをする力が鈍くなっていたことがありました。毎回同じ視点で先生方の指導や生徒の様子を見てしまい、新たな発見ができていない自分に気づきました。短い時間の中で毎回の活動に変化をつけるためには、何が必要なのだろうかかと悩みました。そこで、常に目標を明確にして活動に臨むことが一番ではないかと考えました。私の後期の目標は「先生の指導に対する生徒の反応を細かく見て学ぶ」です。前期はATの活動で自分にできることは何かを探っていました。活動回数を重ねるうちにそれがわかってきたので、より実践的なことに注目しようと考え、この目標を立てました。目標が変わったことで、授業を見る視点も変わりました。以前は授業の内容ばかりに注目していました。しかし、新しい目標に変えたことで、先生の指導に対する生徒の動きをよく見たり、どのタイミングでどのような指導がされていて、それに対して生徒はどう反応しているかを知ったりするようになりました。目標が変われば物事の見方も変わってくるということを実感することができました。少しずつ見方を変えていき、これからの活動をさらに実りあるものにしていきたいです。

大きな目標だけでなく、毎回小さな目標も立てて、より多くの学びを得られるように意識しました。また、生徒のことをしっかり理解することを意識するようにしました。授業に集中しているから良く理解できている、問題が正しく解けたからきちんと理解できている、授業に集中していない

から全然内容が分かっていないなどと決めつけてしまうのではなく、どこまで理解できて何が分からないのか、どうして前を向いてもらえないのか、といった理由を丁寧に探る必要があると考え始めました。そうすることで、生徒の今の理解度はどのくらいなのか、集中できない理由は何かが見えてくると考えました。生徒の言動を細かく読み取り、「なぜ？」を常に考え探り、様々な視点から見る力をつけていきたいです。さらに、その場で問題を解決してそれで終わってしまうのではなく、そこから良い人間関係を築いていけるよう心がけていきたいです。

ATの活動をさせていただけることにいつも感謝しています。これからもこの気持ちを忘れず、向上心を持って、たくさんのことを学んでいきます。



ボランティア通信～松本中学校～

生徒との関係をつくる 人間科学科2年 笠井 義輝

今年の10月から、毎週水曜日に保健体育のATとして松本中学校で活動しています。額面関係なく見せていただいているのですが、曜日の関係から2年生の授業に参加することが多くなっています。ATの活動を始めてまだ日が浅いので数える程しか中学校には行っていないのですが、その中で活動の目標としていることは「多くの生徒と関わり、関係をつくる」です。

実技の授業中は、主に生徒を見て回ってうまくできた生徒は褒め、うまくいかない生徒に対してはできるだけわかりやすいアドバイスをしようと試行錯誤しています。最近参加した球技の授業では、細かいルールや技術の指導が難しく、生徒にしっかり理解してもらうにはどうしたらいいのかなど自分の中で考えていました。そのことを校長先生に伝えると「一度生徒に問いかけをしてみるといい。答えをそのまま伝えるだけではなく、生徒に考えさせることも教育の中では大切なことだ。」と言われました。この言葉を聞いてその通りだと思うとともに、今まで大学の授業やゼミで学んだことがこのATの活動で全然生かされてないことを思い知らされました。その次の週からは、生徒にアドバイスする際には場合によって問いかけを入れることを心がけています。

普段の先生方の生徒との関わりを見ると、生徒とのコミュニケーションがとても大切で、先生と生徒の距離が近いほど、生徒が授業に積極的に参加していると感じます。私は、日頃からコミュニケーションをとることがあまり上手ではなく、ATを始める際にも生徒と仲良くなれるのかと不安

を感じていました。しかし、生徒と一緒にキャッチボールをしたり、生徒に混ざってソフトボールの試合をしたりしているうちに、だんだん生徒の方から私に声をかけてくれることが多くなってきました。声をかけてくれる生徒はまだ少ないですが、そのような生徒から「先生さようなら！」や「明日は来ないの？うちのクラス明日体育あるよ！」と元気に声をかけられるととてもうれしい気持ちになります。最初に目標として掲げているように、もっと多くの生徒と関わり、仲よくなりたいと思っています。

今まででは、活動を始めて間もなかったもので、実際の教育現場を目にして感じたり、授業の流れや指導方法を学んだりすることが多かったように感じます。ですが、これからは教員としての実践力をつけることを目標に、毎回疑問を持ち自分が実際に授業を行う立場だったらどうするかを常に考えて、これからの活動に取り組んでいきたいと思っています。



ボランティア通信～松本中学校～

生徒を指導する難しさ
経済学科1年 阿部 優生

私は松本中学校でAT活動(社会科)を10月から始めました。実際に、授業の中で先生が生徒に対して行っている指導や接し方を見て勉強させていただいています。興味関心の抱かせ方や指導方法(例えば、時事問題やグループ学習、写真やビデオを使った授業)などいろいろと創意工夫が散りばめられており、生徒を第一とした授業構成であると感じました。また、私は授業中に生徒の前で発表する機会を設けてもらうことがあり、常にどのように発表したら生徒に関心を持ってもらえるかを考えながら発表しています。

またATを通して生徒を指導する難しさを実感しました。私は通常、机間指導を行っているのですが、喋っていたり、寝ていたりしている生徒になかなか上手く注意ができず、どのように注意をすれば素直に受け取ってくれるのかを考えていました。最初の方は訳もわからず生徒に対して頭ごなしに注意をするのを繰り返していました。しかし、斎藤先生や大場先生に相談を聞いてもらい、様々なアドバイスを頂いたことにより、生徒のことをきちんと理解もせず、頭ごなしで注意をしたところで意見を受け入れてもらえないと気づかせていただきました。現在は生徒と仲良くなることを第一の目標

としてATの活動を行っています。生徒自身にとって悩みを相談しやすい関係になることで、注意をしっかりと聞いてくれるのではないかと思ったからです。そのためには普段から自ら生徒に対し積極的にコミュニケーションを取ることや、朝の挨拶運動など、授業以外で生徒と接する時間をなるべく多く増やすことなどが重要なのではないかと思います。注意を行う時も、コミュニケーションを取ってからすることにより、生徒に不快感を与えないように心掛けています。実際にそのようなことを行い、徐々にではあるのですが生徒から話しかけてくれること、言うことを聞いてくれることが増えてきました。

先生方や先輩のアドバイスなどをいただき感じたことは、悩みを明かさないのでなく相談することが大事であり、一人では解決できないことも、相談や報告をする事により解決すること、進展することがあると学ばせていただきました。

最後になりますが、このAT活動を通して、授業(座学)では得られない貴重な経験をさせていただいています。まだまだ足りないことが多いと思いますが、このAT活動を通して多くの経験を積みよりよい教師になるために頑張りたいです。

発行日:2016年2月27日

発行場所:神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL:045-481-5661(内線4352)

FAX:045-413-4154

E-mail:jy-sp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp